資料名：新宿区文化芸術振興会議（第２回）議事　要旨

■日時　　２０１１年２月２日（水）　午後２時から午後４時まで

■会場　　新宿区役所本庁舎５階　大会議室

■出席者

委　　員：高階、垣内、星山、高取、乗松、松本、佐藤、舟橋各委員

事務局等：酒井地域文化部長、山田文化観光国際課長、小野寺新宿未来創造財団担当課長、藤牧地域文化部参事、磯野文化観光国際係長、石塚文化資源係長、原文化観光国際主査、北見主任、小泉主任、楠原主事、渡辺主事、原主事

■欠席者

委　　員：大和委員、石丸委員

■開会・委嘱

１　開会

（１）高階会長から振興会議の開会を宣言し、開会した。

（２）高階会長から、第１回会議で承認されたように、本日の主要な議事は、振興会議独自の調査・検討テーマを決定することであることの確認を行った。

　また、本日の進行について、次第に沿って進行すること及び、審議を効率的に進めるため、次第の議事（２）から（４）まで一括して審議を行うことを確認した。

（３）小口委員のあいさつ

第１回会議を欠席した小口委員が、あいさつを行った。

２　議事（要旨）

（１）第１回会議内容の確認について

資料１「議事要旨」「議事概要」に基づいて、第１回会議の内容の確認を行った。

資料の説明は、事務局が行った。

（２）新宿区文化芸術振興会議の運営（進め方）について

資料２に基づいて、第１回会議で承認された会議の運営について、第１回会議から第２回会議までの進捗について、垣内専門部会長が報告を行った。

資料の詳細については、事務局が説明を行った。

（３）新宿区文化芸術の振興に関する懇談会報告書の提言と提言実現に向けての検討及び「私たち区民」による取組み状況について（取組みが進んだ事項を中心に）

資料３に基づいて、懇談会報告書に記された 28 項目の提言について、第１回会議以降の状況について、進捗があった事項を中心に、専門部会長が報告を行った。

資料の詳細については、事務局が説明し、検討及び取組み状況について、振興会

議として、確認を行った。

（４）振興会議の独自の調査・研究テーマの設定について

資料４に基づいて、専門部会長が説明を行った。資料の詳細については、事務局が説明を行った。

なお、（２）から（４）までは、時間を有効に活用するため、一括して説明を行った。

（５）意見交換（要旨）

ア　第１回会議内容の確認について

議事概要、議事要旨のとおりに承認を受けた。

イ　振興会議の運営（進め方）について

専門部会からの報告について、特に質疑はなかった。

ウ　新宿区文化芸術の振興に関する懇談会報告書の提言と提言実現に向けての検討及び「私たち区民」による取組み状況について

専門部会からの報告について、特に質疑はなかった。

エ　振興会議独自の調査・検討テーマの設定について

専門部会での論点整理に基づいた提案「新宿フィールドミュージアム」について意見交換を行い、振興会議独自の調査・検討テーマとすることを決した。

具体的な方法、詳細等については、専門部会で今回の議論を十分踏まえて、論点整理等を行い、次回に示すこととなった。

・文化芸術振興に関する懇談会及び本会議の議論において、新宿には史跡、景観、博物館、美術館、ギャラリー、劇場、ホール、ライブハウス等の多様・多彩な文化芸術資源が存在し、その顕在化が新宿のまちの魅力を創出するとの考え方がなされている。

・多彩な文化芸術資源の顕在化は、区内外の人々にとって新宿の資源の魅力ある価値を明らかにし、更なる発展を促すものともなる。

・例えば、新宿の魅力を内外に発信するというテーマを設定し、そのために各主体に何ができるのかについて、ネットワークを形成し、考える取り組みを行う。

・新宿文化センターは音楽を軸とする方向性を打ち出しているので、芸能花伝舎が協力して中軸となり、クラシック、ポップス、邦楽など多様な音楽でライブハウスや団体との輪を広げ、新宿のまちを超えて活動内容を発信していく。この考えの下では、子どもたちへのアプローチも作れるし、美術館にも適用可能であろうし、区内の多くの演劇団体も試行できる可能性があり、多様・複合的な繋がりが構築できそうである。

・数年前から新宿区が秋に新宿文化ロード事業を展開しているが、規模も小さく力不足である。一方、新宿芸術天国、森の薪能、神楽坂まち飛びフェスタ等特徴的なイベントが分散的に開催されている。これらの力を束ねて、効果的な展開を図ることを考えると、新宿のまちも変わって見えてくるかもしれない。

・「フィールドミュージアム」がクローズアップされているが、先の文化芸術の振興に関する懇談会の報告書では、取組み事項として全体の中の一部だったように思う。今回は少

し広い、むしろ全体を括るような大きな概念でやっていく「フィールドミュージアム」である。
・昨秋の区長選挙も終わり、区長のマニフェスト・所信表明にもあった「フィールドミュージアム」という表現で全体を括った方が、推進効果がありそうである。
・地方自治体のフィールドミュージアムの事例を調べると、実に様々な使われ方をしているが、自由なものでいいと思う。
・「新宿フィールドミュージアム」の基本的な考え方として、顕在化・可視化が重要である。
・会議の資料にも記載されているが、実に沢山の取組みが既にあり、すごいこと、いいことが沢山行われているが、これがなかなか見えないことから、その顕在化というのが目標となると思う。
・多様ないいものがあるので、それを見えるようにし、利用者が利用しやすいようにすることが必要である。
・例えば、ミュージアム、博物館を作る場合にどんな建物にするか。フロア、展示室、収蔵庫はどのように作るのか、どういう作品を展示するのかというのがミュージアムの構成と思うが、利用者の視点から考えていくことが必要である。
・これまでの資料では、例えば「新宿文化絵図」という表現がフィールドミュージアムのところで使われていたが、多様な利用者の立場からは、これは１枚の平面的な地図のイメージでは全然ないと思う。相当大きなデパートのような、フロアが沢山あるようなミュージアムというイメージである。
・ミュージアムの入口も１つではなく、色々な所にある。例えば文化芸術も当然領域別、歴史も含めて色々な領域別の入口があったり、展示コーナーがあるのだろうが、その中でもいろいろなジャンルがある。音楽１つ取り上げても様々なジャンルがあるし、自ら演奏する場合と鑑賞する場合、２つの立場があるし、演奏する場合でも施設の慰問とかボランティア活動等もあるかもしれない。そう考えていくと中々大変なミュージアムであるが、どういう設計をするか。
・そういう文化芸術の領域に限らず、やはり対象者別の入口も必要。全部を見て探しに行くとか、それから領域という切り口から探せるということも必要である。
・年齢の視点もあるかもしれない。次世代のことを考えると、特に子どもたちについて、学校が今求められている内容、これは国の専門家が相当考えてやったものがホームページで形になっているから、それが現状どうなっているか、どういうものがあって、何ができて、何ができていないのか、それが表にできているのか、というような視点も必要である。
・自分がイメージする「フィールドミュージアム」は、１枚のマップのように平面ではなく、デパートのような立体的なイメージである。
・各フロアの展示室の中で、商品、サービス、作品が並び、その床下に収蔵庫があるが、ミュージアムを支える多様な人たちの協力、連携、又は区や外郭団体の財団の支援等のネットワークはどちらかというと床下に当たる。ネットワークは、収蔵庫のようにあまり見えなくてもいいが、フィールドミュージアムのイメージというのは、まず展示室をどう作って、そこにどう辿り着いて何があるのかというのが大事と思う。

・そう考えていくと、あれもこれも全部展示したり、展示室、コーナーを作ったりというのは中々難しいから、全てを展示するかどうかがポイント。
・調査について予算措置をされていると思うが、ミュージアムの設計の前提として、一般の区民が文化芸術振興と言われたら何を、どのような領域をイメージするのか。どのような対象者に対して、現状がどうで、どのように改善してほしいか、振興に関するニーズを調査する必要がある。
・調査方法は、アンケート、ヒアリング色々あると思うが、ミュージアムを訪れ、利用するお客様の視点から、ニーズを定量的に把握し、優先順位の高いものを重視する。ただし、ミュージアムの展示室、作品等は、費用や人員といったものに、区や財団に制約があるから、全ての分野について完璧にやるわけにいかないので、メリハリを付けることが重要。
・優先順位を付け、メリハリを付けながら「新宿フィールドミュージアム」を設計していくという考え方で専門部会以来議論してきたので、「新宿フィールドミュージアム」のイメージを共有化するのが、まず第一歩かと思う。
・当校の文化祭に、会議の委員にお越しいただいたということで、大変ありがたく思う。
・現在の仮校舎にはまだ１年生しか生徒がいないが、生徒１人に当たり１０人、１，４００人もの方にお越したいただき、大変楽しんでいただけたと思う。
・様々な方から、多くのご意見を賜り、来年度、文化祭はいよいよ富久町の新校舎で行う。１０月中旬以降の開催になるが、１・２年生が揃うので、よりパワーアップをさせたいと考えている。
・３月２３日には舞台表現科の後期の学習発表会を国立オリンピック青少年センターのホールで行う。昨秋の文化祭では、ダンスのパフォーマンス、クラシックバレエ、日舞の発表であったが、今回は、演劇も加わり、外部での発表第１弾ということになる。
・「新宿フィールドミュージアム」について、全く同感である。どの世代にも参加できるものではないか。
・子ども達を芸術に早く触れさせるということが、最も大事なポイントであると思う。できれば小学校以前がよいが、小学校、中学校、遅くとも高 1、２年、15、６歳位の全く感性豊かで全てのものに触れて驚き、目を輝かし、自分に取り込んで、自分は何かというふうに考えられるような世代に、よりよいものを身近に見聞きさせる、直接体験させる。やはりこれが最も望ましい方法だと思う。
・「新宿フィールドミュージアム」は本当に身近に、例えば自治会、民間企業、学校、商店様々な組織もそうだし、学校にしてもその小・中・高、専門学校、大学とあらゆるシーンが考えられる。
・「新宿フィールドミュージアム」は人との交流が見出せるという意味で、高校生の活躍の場は凄く広くなると思う。例えば、小・中学生に対しては先輩として教えたり、学ばせたりもできるし、逆に大学生から多くのことを学ぶこともできると思う。
・プロとも交流ができるという観点で言えば、「新宿フィールドミュージアム」は、非常に多岐にわたる展開が身近に実際に行うことができる方法だろうと考えている。こういったことを具現化していくことが、今後のあり方ということになると思う。
・新宿駅西口地下のプロムナードギャラリーでは、毎年、母体校である芸術高校の生徒が

大きな 120 号位の絵を制作し、選抜展として飾っている。そのようなあり方を含めて、「新宿フィールドミュージアム」には、高校生も大いに参加できるものだと思う。
・「フィールドミュージアムの展開」には、非常に心強いというか、賛成をしたいと感じている。
・非常に多様な史跡、文化施設があり、それから文化的なイベントも非常にたくさん行われている。これほどのことがあるのだから、もっと新宿区としてのまとまったイメージがしっかり出ていればと残念に思っていた。しかし、「新宿フィールドミュージアム」という１つの切り口は、新宿の大きなイメージにつながってくるのではないかと思う。
・「新宿フィールドミュージアム」という括り方が、色々な取組みを進めていく大きな推進力になるのではないかという点は、大変同感である。
・以前の会議の時だったと思うが、文化を軸として、新宿区のエリアの文脈・コンテクストのようなものができるといいという話をさせていただいた。それが新宿文化絵図をベースにして何かできるのではないかという発想にもなったし、そういうことも懇談会の提言の中に含まれていた。「新宿フィールドミュージアム」は、新宿区としてのアイデンティティー、文化を大事にしていく新宿区というイメージが強く出せることではないか。その総論として非常にいいと思う。
・他の方も述べているが、方法として、行政と学校、企業、それから住民といった「私たち区民」の構成メンバーが一緒になって考えるところから出発し、アイデアをまとめ、一緒に働き、動いていくような活動をしていくことが非常に大事だと思う。
・そういう方法によって、皆さんの中に新宿区の文化のまちづくりというイメージがきちんと根づいていくのではないかと思う。
・ＰＲの方法も非常に大事で、このように区長が旗を振るような形で、大きな仕掛けとしてメディアに取り上げてもらえるような進め方というのも、非常にいいと思う。
・「新宿フィールドミュージアム」構想の中に加えてもらえる人達、企業、芸術団体にとって、認定方法はこれからだが、フィールドミュージアムの１つである、一環であると認められることは、非常にメリットがあるだろうと思う。
・「フィールドミュージアム」にメリットがあるというふうに実際に作っていきたいし、そう感じてもらえるようにしたいと思う。
・メリットがあれば、色々なニーズ、企画、人材、お金等が集まってくるという好循環が生まれてくるのではないかと思う。
・先ほど他の方も述べていたが、計画的に、段階的に進めていくことが大変重要だろうと思う。
・プライオリティーの話もあったが、あまり絞り過ぎてもインパクトが弱くなってしまうし、広過ぎても弱まってしまうと思う。その段階をどのように区切っていくのかというのも問題である。
・最終的なゴールのイメージを作らないといけないが、そのイメージと、どの段階までに何を実現するのかというステップ、各ステップでの成果の検証というようなことも非常に大事ではないかと思う。
・時限的なプロジェクトのような形で、実現の段階ごとに、私たち区民の構成メンバーに

よる混成プロジェクトチームのようなものがあってもよいのではないか。
・個人的な気持ちだが、「新宿区のフィールドミュージアム」なのか「新宿フィールドミュージアム」なのかということを少し考えた。
・先ほど紹介があったが、フィールドミュージアム構想を打ち出している自治体は全国に沢山あるが、その多くは、独立した地域としての存在感があるのではないかと思う。
・それに対して、「新宿区」は行政の区域であって、隣の道路へ行くともう別の区ということになる。自分は新宿区に住むが、隣接区の駅や商店街を使うという実態がある。このような隣接区との境界をどう考えるのかということが少し気になった。
・「私たち区民」という概念は非常に有効ではないかと思うが、その概念からすると、隣接区の住民や商店、あるいは文化施設であっても、緩やかな新宿区エリアという捉え方ができるのであれば、住民としては非常にありがたいと思った。
・この構想について、まず調査からスタートすると読み取れたが、構想全体のイメージというのをもう少し明確にした方がいいのではないかという気がした。
・あまり目的の薄いところで調査をするというのも、曖昧な答えしか出てこないのではないかという気がしたので、先ほどの段階的にということも含めて、全体のゴールイメージと、そして今何を調査するのかというところのきめ細かい詰めをしていけばいいのではないかと感じた。
・テーマが「新宿フィールドミュージアム」の展開ということで非常にわかりやすくなった。
・美術館でボランティアガイドをしているが、昨年秋「新宿文化ロード」のパンフレットに、「大人の対話型鑑賞」について載ったが、その効果か、一昨年よりも大変多くの方に参加していただけた。こういう活動を、行事の中に組み込むということは、とても大きなことと実感した。
・「新宿フィールドミュージアム」に、新しく個人や団体が加わる場合、どのような形、手続き、基準で参加できるようにするのか、大変興味があるし、参加することによって活動がどんどん活発になっていくのではないかと感じた。
・多くの活動がある中で、コーディネートの強化が、本当に重要ではないかと感じた。やはりこういう活動に参加したり、常に興味を持ったりすると見えることが、一般区民には中々見えてこないことが多いと思う。
・コーディネートの強化の次に大切なことが、それをアナウンスすることではないか。例えば夏目漱石のことに関しても、自分は送っていただいたパンフレットを見て知っていたが、新聞で知ったという人が周囲に数人いた。アナウンス効果、つまりＰＲというのが凄く大事なことだと思った。
・コーディネートもＰＲも大事に考えながら、「新宿フィールドミュージアム」を進めていけたらと思った。
・資料にもあるが、文化センターの会議室の増設、第５会議室ができて、また活動の場が少しでも広がったことは、合唱連盟だけではなく、文化センターを利用する団体にとって大変喜ばしいことと思っている。
・文化センターでは、無料のランチタイムコンサートがあるが、昨年１２月、第１００回

を迎えた。私たちも時々参加しているが、１００回では時間を延長したこともあり、連盟の有志もプログラムの一部に参加させていただいた。その中にハレルヤコーラスというのがあり、大合唱した後、会場全体で合唱したが、参加者もいつもより非常に多く、会場全体で楽しむことができた。
・「新宿フィールドミュージアム」について、自分も本当に素晴らしいことと思う。
・「新宿フィールドミュージアム」は、フロアが沢山あるイメージとの話があったが、やはり平面も必要だと思う。それで、新宿区も色々な世代がいるので、平面でそれを見られれば、どこに行こうとか、そこで何をやっているかというのはわかると思うので、そういうのも必要かと思う。
・全体の新宿文化絵図だが、誰にでも利用しやすい、読みやすい、興味をそそる、気軽に何か参加できるようなものであってほしい。
・文化芸術の分野別に、膨大な資料から選べるのも大事だとは思うが、やはり子どもや高齢の方とかそういう方が、簡単に調べることができて目的地に行けるとか、それを新宿区全体の地図にして、そこの中でこの分野の時はここに何があるとか、そういうわかりやすいものであって欲しい。
・自分で住んでいる地域のことは詳しいが、同じ区内でも他地域になると、電車でもどう行っていいのかわからない時がある。そういうのをパッと見てわかるようにするとか、若い年代にはパソコンでクリックすればわかるので、そういう分野別に色々と案内というか、文化絵図を作って楽しめたらいいと思う。
・今の具体的な地図の分野別な文化絵図とか、ＰＲの重要性ということも考えなければいけないと思う。
・私たち遊びと文化のＮＰＯ新宿子ども劇場は一昨年、劇団風の子の『陽気なハンス』という作品を、舞台劇として、劇団風の子、東京おもちゃ美術館と新宿子ども劇場の三者協働で上演した。
・１つの団体がやるよりも、大きな３つの団体がやることでより幅広く発信することができ、より沢山の子どもたちに文化を届けることができた。
・新宿区の障害者福祉センターに若松発・わいわい福祉フェスタというイベントがあるが、そういう所に私たちの文化の団体が行くことで、障害のある子どもたちにも文化の力を持っていくことができた。
・地域の大人と子どもが一緒に文化の体験をすることを大切にする団体が集まって、ニューイヤーキッズミュージアムという、地域の文化祭みたいなことを、２００３年から新宿区の子ども家庭課と一緒にやっている。毎年継続して行うことで、子どもと大人が文化によってつながることが、子どもの発達には素晴らしいということを見せていっている。
・直近では来月、オペラ『ピノッキオ』の観劇会をやるが、原作のある舞台作品については、読み聞かせ等で活用してほしいということで、地域の図書館にお願いして、原作を強化して置いていただき、図書館の本を通して劇を紹介したり、読み聞かせでの活用等を進めている。
・５月に同じようにニール・サイモンの作品を上演するが、ニール・サイモンの著作もたくさんあるので、同じように、劇だけではなく区民の方が、本を実際に手にとってもらえ

るような仕掛けを行っている。
・文化月間制定についてのヒントになればと思うが、私たちの団体は中間組織として東京都内の２７地域に同じような団体があり、東京都協議会という上部組織もある。子どもたちに文化をということで、昨年１１月、子ども文化キャンペーンという形でチラシを作って、都内での活動数がおよそ２３地域の９１活動にのぼり、その１カ月間に子どもだけで約２８，０００人の参加があった。こういうことが必要ですよという月間を設けることで、より沢山の子どもたちが文化に触れる機会を地域に作り出すことができた。
・昨年が最初の年だったが、東京都内に小学校区が１，２００、新宿は２９ある。ある期間、文化活動がその地域のどこかでできているという観点から、例えば一カ月間、２９カ所の小学校区のどこかで、地域の文化活動ができているというようなことを目指すというような形の文化月間を設けることで、色々な方に文化が届くというような体験を得た。
・コーディネーターということにも関連すると思うが、私たち大人は文化の情報がある場合は簡単にキャッチすることはできるが、子どもに文化を届ける場合は、文化の仲介者であるコーディネーターが必要ではないかということを実感している。
・そういった意味でもコーディネーター力の強化が今後とても期待されている。どのような形になるかわからないが、ぜひ、１、２人ではなく沢山のそういう文化の仲介者ができる区であってほしい。コーディネーター集団というか、それをまた集団で動かせるような力になっていけたらいいと思う。
・前回から参加しているが、例えば資料に「まちの記憶を受け継ぐ、活かす」とあるが、この７ページあたりを参考に、新宿は具体的にどういうイメージを持つまちなのか、最初に考えた。
・まず新宿駅周辺の賑やかな地域、有名な神楽坂の地域、韓国料理店の多い新宿、新大久保、あるいは高田馬場周辺の地域、それから徳川の屋敷跡につながる牛込周辺地域、飲屋街の荒木町とか、具体的にイメージするとそういう所が浮かぶ。
・資料を見ると、これは「新宿区」という言葉で置きかえてはいないようである。このまちのイメージが何かあって、今日いただいた資料の中では「都市（まち）の魅力（の創出）」ということで、新宿区の中にあるまちのイメージが強調されている。
・具体的にはどういう所かという、それがおそらく懇談会から議論してきた人の中では共有されているのだろうと思うが、前回から加わった私には、まだ共有されたイメージを理解していないと感じた。
・文化財保護の観点から「新宿フィールドミュージアム」を考えると、新宿区の文化遺産、あるいは文化歴史遺産、自分の担当は主に寺院で、寺院、神社等が持つ仏教遺産等の調査・保存という立場から考えていくと、このフィールドというのは、今のまちの話とはまた別に切り離して、そのお寺や神社の存在そのものが１つのミュージアムであり、「フィールドミュージアム」の１つの展示になると思う。
・そう考えるとき、今、郷土博物館等でそういう仏教遺産資料の仏像等の資料が蓄積されている。そういうものも、どう活かすかということになるが、そういう「新宿フィールドミュージアム」という立場から、資料館の展示の工夫とか資料の作り方等がやっていけるのではないかと考えた。

・まちのイメージのところに戻ると、ここの７ページには２０番、新宿ぶらり散歩塾、こういうのは非常に大事だと思う。まち歩きは、そういうフィールドミュージアムの上では大事なのではないか。
・今日少し考えさせられたのは、新宿まち歩きで、これは新宿のまち。そして、その下に21 番は新宿ぶらり探訪で、これは歴史文化探訪。まち、つまり新宿から離れるとまちと考えていない所を探訪するわけである。
・四谷では、まちづくりを推進していくというような都の観光まちづくりアドバイザーの派遣事業が行われており、まちのイメージというのがどうなっているのかというのを、早く共有したいと思っている。
・「まちの記憶を継ぐ、活かす」、あるいは「まちへの愛着・誇りを育てる」という、いろいろこれまでも出てきたが、今指摘があったように、「まち」というのは何だろう。
・これまでの議論で出てきたもので考えても、新宿区なら新宿区という、明らかに地域である。
・しかし、「まち」は、その地理的、空間的なものだけではない。１つにはその地域で、境界線があるが、「私たち『区民』」というのはその境界、行政的な境界を越えて、勤めの方、遊びに来る方、あるいは隣接地に住む方も含めて、そのまちのにぎわい、あるいはまちの持っている魅力が生まれてくる。
・すぐ隣の区の近くに住んでいる。それも含めて、もうここから向こうは知らないよということではなくて、広い意味での地域ということがあると思う。
・しかし、空間の広がりだけではなくて、そこには時間が流れていて、過去の遺産がずっとあるのが「まち」である。
・単にハードの建物があって、道路があって交通機関があるという、これは大事であるが、それだけではなくて、長い歴史があって、記憶があって、遺産がある。それが資料館とか博物館とか美術館ということに残っているから、フィールドミュージアムというのも、おそらく「まち」という言葉の中には生きてきた人々の歴史も我々が受け継いでいるという感じが含まれている。単にハードだけではないという感覚が多分そこにあって、その魅力なり記憶をどうやって今度は次の世代につないでいくかという問題が出てくるのだろうと思う。
・都市とかあるいは形、ハードだけではない「まち」という言葉に含まれているもの、それは地域であり、歴史であり、建物であり、インフラであるものの全て、プラス、人々である。
・人々の生活があり、その人と人とのつながりは、大勢の方が指摘されたと思う。文化というのは基本的にそういうつながりによって生まれるし、またつながりを生み出すと思う。そういう人間的なものがハードの物質的なものに１つになっているのが「まち」のイメージではないか。
・そういう「まち」をぶらりと散歩するときには、具体的にまちを歩いていくのだけど、同時に人々の生活を思い、あるいは触れるということで、多分我々がそこにいろいろ記憶をし、さらに新しい興味を持つということがあるのだと思う。
・このことについては、言葉そのものからして、何となく我々はそういう感じとして「ま

ち」を勝手に使ってきたのだろうと思う。これからのそのフィールドミュージアムという、まさしくフィールドというのは場所を示す言葉だが、空間だけではなくて、そこにまち的な人々という生活があり、記憶があり、あるいは緩やかな広がりのあるそういうフィールドということで、それぞれ皆さんお考えいただいているのだろうというふうに感じた。
・既に指摘されたが、新宿区は今までも沢山の文化資源が色々な人の手によって作られて、そして発展してきていて、しかも行政も様々な手を打って、沢山の事業を行っている。
・ここで新しいものを何かつけ加えるということではなく、むしろ既存のものをうまく結びつけて、それをシナジー効果とよく言うが、大きくしていく。色々なイベントでも、その幾つかの団体が集まると非常に効果的になるという話もあったが、そういうようなものを狙っていきたい。
・今までたくさん細分化されていたものをうまく結びつけるような、大きなグランドデザインというか、大きな傘みたいなものが欲しいと考え、注目したのが「フィールドミュージアム」である。これによって逆に言うと文化や芸術がとても重要な人々の生活の一部だという意識、コンセンサスも作ることができるではないか。
・区長の所信に書かれたまち歩きやまち遊びについて、まちに注目された方もいるし、まち歩きに注目された方もいるが、遊びということに非常に共感を覚えた。要するに、みんなで楽しもうみたいな感じがして、とてもいいと思った。
・このフィールドミュージアムは何かを排除するということではなく、やってくる人はみんなこの指止まれみたいな感じで入っていけるようなものがいいのではないかと思う。
・皆がそれぞれの思いをうまくのせて集まっていくというような、そういうきっかけづくりがこの「フィールドミュージアム」でできたらすごくいいのではないかと思う。
・何でもいいかというと、それでは焦点がぼけるから、例えばフィールドミュージアムのコア事業とかシンボル事業みたいなものが必要ではないか。シンボルは、別に新しく作るということではなく、例えば文化ロードを拡充したり、新宿文化センターとかで沢山行われている色々なものをうまく集めて、１つそこを何とかフェスタとか、それからあと、既にまち飛びフェスタもあるから、そういったものをうまく結びつけたシンボル事業やコア事業があって、そこにみんなが参加したいという場合は、例えばパビリオンフェスティバルとか、エジンバラもそうだがフリンジ。もうあの時はまちじゅうがお祭りみたいな、あんな何か広がりが将来的にできてくるような条件整備ができると、このフィールドミュージアムは成功かと思う。
・もの、カ、歴史など文化芸術資源は区内に一杯あるが、それらを可視化、顕在化することと、それらをつなげるネットワークが大事ということは、これまでも議論され、認識されてきたことだと思う。
・そういう方向で、可視化・顕在化には、利用者の視点が必要である。また、ネットワークするときでも、色々なものがある中で、一体どういう形にして、どこから入ったらいいかとか、どういう興味からどう探せばいいかと、これは利用者の視点が大変重要であるということもあって、実現するためにいろいろそういう点も考えていこうというお話もあった。そういう実際的な問題、大変大事と思う。
・同時にプラスして世代間交流というか、いろいろ学校でもそういうニーズを定めるとき

に、これは子ども向きとか高齢者向き、いろいろあると思う。それはそれで大事だが、同時にそれで年代だけで横に切ってしまうのではなくて世代を超えて一緒になってやろうと。これは実際、文化にとって大変大事だと思う。
・文化的な活動についても、学校でも多分学年によってそれぞれ当然違うわけだが、文化的な交流を一緒になってやると、年少者はいろいろ年長者から学ぶし、年長者も教えることで育っていく。
・実際の生活においても、家族の中で、子どもとおじいちゃんが一緒になってやるということで文化がつながっていく。
・文化的な活動には、年齢、年代等に応じた区分けというのも大事だが、同時に１つになっていくことも重要だろうと思う。
・文化的な活動には、それも含めての協働を様々な協働作業が大事だというお話もあった。
・それをその場合には、隣接の区でも緩やかに一緒になってできるところはやろうじゃないかというお話は、なるほどと思った。
・大変重要なことは、我々はいろいろなことをやりたいし、やらなければいけないが、一度に全部というのではなく、段階的にやっていく。つまりプライオリティーを付けるというか、どうやっていくのか。
・プライオリティーを付けることは、グランドデザインともつながると思う。つまり戦略が必要ということ。
・一体どうやって何をやっていくか、どういう形で、あるいはどういう仕組みで戦略チームあるいはヘッドクオーターをつくるのか、それも考えていく必要があると思う。
・これだけ多様な文化の問題ということは、我々の戦略思考が必要ではないかと思う。
・それと並んでＰＲが大事である。我々としてこれだけ色々なことをやりましたと言っても、中々それを知らせ切れていない。関心のある人に、それでは、美術館へ行きたいからとか、演劇でどうだというネットワーク化が必要だが、加えて、必ずしもそうでない一般の人には、漱石山房がある、中村彝もいた、新宿にはこういうのがあるということをわかっていただく。それじゃあ地域を１日回ってみようかということもある。大変大事なことだと思う。
・文化活動する上で、ニーズの調査が必要。自分はこうしたいが、うまくいくかわからないということに対して調査が必要だが、同時に何か知らない人にそのニーズを聞くと、自分のやりたいことだけが出てくるが、何か知らない魅力というものを、知らない人に知らせていくことは必要。
・今まで全く関心がなかったのが、新聞で漱石山房が出た、それならと調べてもらうとか、多分それも戦略の一部だと思うが、必要と言われたことだけやるのではなく、逆に必要を掘り起こしていくような取組みが重要との指摘があったと思う。
・それぞれのニーズについても、あまりいろいろなものがあると、どこに行っていいかわからない。その時に、入口をこう分けていくというようなことと、それを見やすくしていく分野別地図が必要と思う。
・時により、同じ人でも、たまには美術館に行きたい、ちょっと音楽に行きたいなということもある。人の気持ちは非常にフレキシブルだから、固定しないでいろいろな形の文化

へよく出かけて行けるような形が必要かと感じた。
・子どもも大人も一緒になって、ニューイヤーキッズミュージアムというような形でやる、本当に文化はいろいろな世代がつながることによっても生まれてくるし、継承されてもいくことなので、そういうほかの皆さんもおっしゃったいろいろなものが１つになってやると、それは世代間の交流にもなる。
・ＮＰＯ、美術館、劇団が連携して『ピノキオ』を上演するときは、原作の本も見せようと図書館とも連携するというように、つながり、ネットワークを生かしていくということは大変に重要と思う。
・ネットワークのためにはいろいろな文化的諸事情をうまくつなげるコーディネーターの役割が重要だが、専門的な人を養成していく必要があると思う。
・コーディネーターの養成は、１人や２人ではないし、実際どういう形で養成するのかということも我々の戦略で考えなければいけない。
・新宿区のまちとは何かという大変基本的な問題が出され、考えてみるとなるほど、それは空間でもあり、歴史でもあり、一方、人々の記憶でもあり、遺産でもあり、それが我々の遠いつながりであることを改めて見出していくことにつながったと思う。
・まちの魅力をどうやるか。美術館あるいは資料館の展示等に関しては色々ご示唆をいただいたが、それをまた、広くつなげていくことができるであろうと同時に、そのまちの魅力というものをもう一度考え直して、今までの様々な提案に、筋を通していくことがあると思う。
・グランドデザインや戦略的な話と、あまり堅苦しくなく遊ぶというような話、どちらも大変結構だと思う。
・文化は学ぶという大事なこともあるが、そういう堅苦しいことだけではなく、人間的な遊び、様々な感覚を広げていくことも必要。
・戦略的には、できれば何かあるといい。シンボルタワーが立っただけで何かにぎやかになるようなまちもある。何か新宿区としてはこれだよというようなことを考えていくことが必要。
・先ほどグランドデザイン、戦略の話があったが、色々な方から地域資源を物語にするということは、結構大きなキーポイントだと思うが、その辺の戦略の中心たるチームというか、そういうプロデューサー的なところがあるといいという気がした。
・本当に様々な内容のある多彩なご意見をいただいた。「文化芸術振興のためのネットワークの構築」、「新宿のまちの魅力の創出」、「文化芸術と『私たち区民』」、この３つの基本的なテーマを包括する形で「新宿フィールドミュージアム」を独自の調査・検討テーマとすることを、この振興会議として決めたい。
・今までのお話を通して、これからもご一緒に考えていただきたいと思う。次回のためにまた色々専門部会でもご討議いただきたいと思う。今言われたグランドデザイン、あるいは戦略なり方法論というものについて、専門部会長を中心として考えていただき、どういう形で行くかということも検討していっていただきたいと思う。
・具体的な調査方法等については、専門部会において議事録を作成していただき、本日の議論を十分に踏まえて、しっかり論点整理を行っていただいた上で、次回に臨みたいと思

う。

３　次回日程等について

第３回懇談会は、平成２３年５月又は６月頃に開催することとし、詳細な日程や会場等については、後日事務局から連絡をすることとした。

４　閉会

会長のあいさつをもって、１６時に閉会した。